

# 地域での支え合い

高齢社会が進展する中、住み慣れたまちで、安全・安心に暮らしたいという思いが強まってきています。また、東日本大震災をきっかけに、家庭や地域の「絆」が改めて注目されています。今回は、自分たちのまちを自分たちで暮らしやすくしていくための活動について紹介します。



ご近所同士の支え合いがまちづくりになります。下野地区では、新しい支え合いの形が始まりました。

## 地域の新たな挑戦!!

NPO法人 下野・生き域ネット

### どんな支え合い?

高齢者や体の不自由な人が、普段の生活の中で、ちょっと困ったりしたことを気兼ねなく依頼できるよう、少額の代金でお手伝いしています。具体的には、庭木の剪定、草刈り、室内清掃、外出付き添いや、話し相手などを実施しています。

### 笑顔の広がるまち、住み続けたいまちを目指して

下野地区の活性化を目指して幅広い事業を行っています。その中で、「暮らしのお手伝い」は、高齢者や障害のある人などを、ほんの少しお手伝いすることで、住み慣れたまちでいつまでも楽しく暮らせるようにと、今年4月から活動を始めました。お手伝いをする側は現在45人、地域や人の役に立てることの喜びや、定年後に地域に溶け込む機会にもなると、生きがいを感じながら活動しています。



NPO法人 下野・生き域ネット 理事長 市川 登さん

## 地域活動の要 自治会

同じ地域に住む皆さんが、自主的に住みよいまちを目指して活動している組織が自治会です。住民の皆さんの支え合いにより良いまちづくりが進められています。

### ■自治会の主な活動

#### 安全なまちづくり

防犯パトロールやあいさつ運動、外灯の維持管理などを行っています

#### きれいなまちづくり

ごみ置き場の管理や公園等の清掃など、まちの美化を進めています

#### 災害に強いまちづくり

日頃から防災訓練を行い、災害発生時には避難所の運営を行います

### 自分たちの力で、安全、安心、住みやすいまちへ

四日市市自治会連合会 会長 高野 健さん



安全、安心で住みやすいまちを目指している自治会では、震災をきっかけに、改めて地域での助け合いに着目しています。また、地域に関わるさまざまな組織や団体同士の横の連携も図っているところです。

自分たちのまちを自分たちで作り上げていくためには、人と人との触れ合いが大切です。引き続き、自治会ではさまざまな行事を開催しますので、皆さんのご参加をお待ちしています。

### これからのまちづくり

多様化するこれからのまちづくりに向けて、市民、市民団体、事業者、行政などが、できることを担い合い、共に支え合うことが求められています。自分たちができる、ちょっとした協力が大きな支え合いに広がり、皆さんの快適な暮らしにつながります。

あなたもまちづくりの主役として地域活動にぜひご参加ください。

### 利用者の声

- 高齢となり免許証返上後、通院の付き添いに利用しています。近所の医者へ行くことも気兼ねなくお願いでき、大変ありがたいです。(77歳男性)
- 庭の草刈りをお願いしています。地域の人に手伝ってもらえるので、親近感もあり、安心できます。(78歳女性)



## 笹川地域づくりサポーター養成講座

外国人市民が集住する笹川地区では、地域の一員として積極的に地域活動に参加できるよう、主に外国人市民を対象に、将来、地域の核となる人材を養成しています。昨年度から開催した講座は10人が修了、今年度も12人が受講し、地域活動に参加しています。

ごみ集積所の管理・清掃や防犯など自治会などが実施する地域活動について学びます

実際に地域活動に参加した外国人市民から体験談を聞き理解を深めます

同じ地域に住む者同士、日本人市民も外国人市民も、みんなが暮らしやすいまちについて意見交換します

全4回の講座を行い、実際に防犯パトロールや地域のまつりの運営などにも参加します



受講生  
佐藤ジョルジュ  
良一さん

地域のために何かお手伝いできないかと思い、約2年前から笹川地区の一人暮らしの高齢者宅を訪ねています。話し相手になることで、笑顔になってもらえることにやりがいを感じます。地域活動を行う外国人はまだまだ少ないです。まずは、同じ講座を受けているメンバーとコミュニケーションをとりながら、このまちで外国人も日本人もより良く暮らせる方法をみんなで考え、地域での活動につなげていきたいと思っています。

# 地域の一員として暮らす

地域活動?自治会費?  
母国にはありません!

市内には、総人口のおよそ2.5%にあたる約7,800人の外国人市民が笹川地区を中心に在住しています。およそ40人に1人が外国人となります。同じ地域に住む者同士、日本人市民も外国人市民も、文化的な違いを認め合いながら、互いに顔の見える関係を築き、「地域の一員としての役割」を果たしていくことが大切です。こうした多文化共生を図るため、市ではさまざまな取り組みを進めています。



## 災害時外国人住民支援研修事業

地域住民として何ができるかを日本人市民と外国人市民とが話し合うことで、互いに顔の見える関係を築きながら災害時の共助の担い手となるような研修を実施しています。

東日本大震災のような大きな災害が発生した場合、最初の3日間は、自分自身や地域の助け合いで乗り越えなければならないと言われています

発災時、日本語の理解不足などから正確な情報が得られず、外国人市民が災害弱者となってしまうがちです

笹川地区において、人口の17.5%を占める外国人市民は、災害時にも大きな力になり、災害弱者を支援する側となることが期待されます

そこで

母国で地震や津波、洪水などの経験が少ない外国人市民に対し、防災訓練への参加や災害時の備蓄など、日ごろから備えておくことの大切さを伝えます。また、災害発生時の適切な避難方法や住民同士の助け合いの必要性について理解を深めてもらい、地域の防災力を高めます。

